



Title	地域文化とアート概念の拡張 : 神戸ビエンナーレ, 10年の歩み
Author(s)	大森, 正夫
Citation	デザイン理論. 2017, 69, p. 82-83
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/65031">https://doi.org/10.18910/65031</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 地域文化とアート概念の拡張 — 神戸ビエンナーレ, 10年の歩み — 大森正夫／京都嵯峨芸術大学

神戸市が阪神淡路大震災から10年を機に提唱した「神戸文化創生都市宣言」の具体的取り組みとして「港で出合う芸術祭 神戸ビエンナーレ」は開催された。この事業は、地域と時代のアイデンティティーを再認識・再評価することを基本指針とし、神戸の地域文化と日本の大衆文化力を基軸に、アートを地域概念の再評価から、地域をアート活動の再認識から創生することを目的としたのである。



事業は、新たなアート分野をコンペティションによって広く募集し、地域に由来する作家を多く招待するなど、これまでの美術分野には登場していなかった作家が数多く参加する芸術祭にもなっていた。

そこで、2007年から2015までの10年5回の事業をアーティスティックディレクターとし



て携わってきた立場から振り返り、地域文化との関わりとアート概念の拡張について再考した結果を報告する。

### 神戸の文化力とアート

神戸は近代日本の歴史においても戦後の現代美術史においても日本をリードしてきた多くの芸術文化事業を実施してきた都市であり、一地方都市ではない自負に富む環境を有している。そこで、グローバル化した既成のアート概念の普及ではなく、都市の活力（神戸の文化力）でアート概念の創生をはかる芸術的事業として、神戸ビエンナーレを企画立案し、地域と時代のアイデンティティーを再認識・再評価することを基本指針とした。

換言すれば、神戸において生活になっている文化芸術活動を見直すことにより、地元の市民生活を活性化すると同時に閉塞化したアート概念が拡張できると考えたのである。特に、狭義のアートではなく、現時代における文化表現を総体的に扱い、分野的な広がり意識できるような取り組みに力点を置いた。

芸術性豊かな神戸市民の文化力と先取・多様な「神戸」のブランド力を活用し、時事性に欠けるものや一部の専門家の嗜好を充足させるようなアートに偏る祭典ではなく、さま



